


たが

こんにちは 
議会です!!



トップアスリート佐野秀匡選手と未来のスイマー

- ・ 6月定例議会 2
- ・ 各常任委員会審議報告 4
- ・ 一般質問 9議員が問う 6
- ・ たがとともに 12

第126号

平成22年8月1日発行
発行多賀町議会
編集広報発行特別委員会

滋賀県犬上郡多賀町大字多賀324
〒522-0341 ☎ 0749(48)8126
FAX 0749(48)0157
有線 2-2011

ホームページ <http://www.tagatown.jp>
E-mail gikai@town.taga.lg.jp

苦悩の40年 精神的補償を!!

知事に意見書提出

生活再建と地域振興も早急に



知事に意見書を提出

意見書の要旨
県は平成21年1月9日に地域住民との話し合いもなく、一方的に中止を公表された。地元住民はダム建設の言葉に翻弄され、長い年月にわたり不慣れた生活を強いられてきた。地元住民の思いと、

芹谷地区ダム対策委員会、同水没委員会との要請もあり、生活再建、地域振興、精神的補償を早急に取り組みよう強く要望する意見書を賛成多数で可決した。

ダム建設中止後の地元住民の生活再建、地域振興をどうするかが問題。地元住民の切実な心情をくんだ意見書である。集団移転地問題なども県の責任である。知事の任期も切迫し、一日も早く提出したい。

賛成討論
小林元嗣議員
ダム建設中止後の地元住民の生活再建、地域振興をどうするかが問題。地元住民の切実な心情をくんだ意見書である。集団移転地問題なども県の責任である。知事の任期も切迫し、一日も早く提出したい。

反対討論
土田一善議員
現時点で生活再建、地域振興策が地元の総意とは考えられない。明日19日地元総会がある。地元の意志を確認してから提出すべきである。

提案理由
藤本一夫議員
水谷地区の生活再建は、昨年9月から県の芹谷振興事務所と水没部会、芹谷地区ダム対策委員会との間で協議され、議会に支援を要請された。地元の願い、思いをくみ取り賛同願いたい。

県立学校統廃合に関する意見書の要旨
提出者 山口久男議員
賛成者 川添武史議員
「県立学校のあり方委員会」は学校廃止を含めた大幅な統合・再編が必要。1学年6から8学級が妥当の見解である。多賀中の卒業生が進学している湖東は5学級以下が大半である。近隣の高校がなくなれば通学時間や経費の負担が増え、地域もさびれる。「統廃合ありき」でなく保護者、地域住民の意見を聞き、今後の方向を決めることを求める。

特別委員会の名称変更

- 旧 ダム建設対策特別委員会
- 新 ダム対策特別委員会

- 旧 広報発行対策特別委員会
- 新 広報発行特別委員会

(賛成多数で可決)

平成21年度繰越事業

総額 3億1,600万円

B & G プール改修事業ほか

上水道、浄水施設事業

6月定例議会

同意

定例議会は、6月10日から18日までの日程で開催し、同意1件、承認5件、報告4件、規約変更3件、条例5件、補正予算1件を原案のとおり同意、承認、可決した。意見書2件は可決、請願1件は不採択。

21年度補正

一般会計	歳入の主なもの	町税	8,000万円
	地方交付税		1,400万円
	歳出の主なもの		
	財政調整基金(積立金)		8,200万円
	減債基金(積立金)		7,850万円

21年度繰越事業内容

事業名	金額
電話交換機デジタル化	930万円
本庁舎(会議室自動ドア)改修	450万円
多賀調整池法面改修	100万円
子ども手当システム導入	350万円
旧保育所、駐車場整備	1,310万円
林業会館屋根改修	540万円
高取山宿泊施設改修	590万円
高取山ふれあい公園修繕	180万円
水道事業会計、水管橋塗装	400万円
除雪車の車庫新設	2,650万円
道路側溝改修・舗装	790万円
橋梁塗装	950万円
交通安全施設(ガードレール)	160万円
防災無線設備	710万円
多賀小学校プール改修(塗装)	450万円
多賀中学校体育館修繕	100万円
多賀幼稚園屋根等修繕	450万円
B & G プール改修	3,740万円
テニスコート駐車場舗装	270万円
あけぼのパーク維持補修	340万円
浄水施設ほか	1億6,180万円

国民健康保険特別会計	1,650万円追加
老人保健事業特別会計	2,300万円減額
介護保険事業特別会計	2,951万円減額
後期高齢者医療特別会計	3,621万円減額

条例

一般会計
・日本脳炎予防接種委託料 1,333万円
・中学校フェンス修理ほか 4,044万円
・駅前「もんぜん亭」の設置管理の条例制定。「もんぜん亭」の厨房使用料を定める。

22年度補正
・厨房使用料 4時間まで10,000円、4時間以上20,000円、厨房以外は無料
・3歳に満たない子の育児や介護等を行う職員の超過勤務の制限などや短期の介護休暇を新設。育児休業等を行うことができる職員を拡大。県内他市町の障害者支援施設等に入所し住民票を移した者は特例を適用。本町の福祉医療費で助成。

総務

6月11日、付託を受けた条例5件、22年度一般会計補正予算、請願1件の計7件を審議。「もんぜん亭」の設置、管理に関する条例、使用料条例の一部改正の2件は連合審査とし、いずれも原案のとおり可決すべきものとした。請願は、不採択とすべきものとした。



育児支援教室 すくすく元気に

問 育児休業に関する条例の内容は。

答 育児または介護を行う職員の負担軽減を図るもので、法律の改正にもなう条例の一部改正である。

問 今後も育児休業に関する法律の改正はあるのか。

答 今回、抜本的に改正されたので今後はない。

問 多賀町には重度心身障がい者(児)の入所施設はあるか、またほかの市町に入所されている人は何人か。

答 多賀町内には該当する施設はない。

問 他市町への施設入所者は9施設、11人で全員国保の加入者である。施行日、8月1日の根拠はなにか。

答 8月1日が福祉医療費受給者証の更新日であること。

閉会中の調査

6月1日、教育委員会所管の各教育施設の視察、調査を行い、平成22年度の教育方針、学校経営管理計画と事業の概要などの説明を受け、質疑を行った。



多賀小学校での視察

問 幼保一体化について保育園と幼稚園の保育料の差はどのように考えているのか。

答 保育園の保育料は所得に応じて、幼稚園は月額6500円と給食費4000円ぐらいを考えている。

問 保育園と幼稚園の保育料は異なるが、教育委員会としての方針は。

答 別々の事業として一体化していききたい。

問 学校評価が大切と思うがどうか。

答 学力向上と活性化のために努力したい。

問 重度障がい者の受け入れ体制は。

答 保護者の要望を尊重し学校、養護学校で対応していききたい。

問 星空の街・あおぞらの街の取り組みは。

答 全国大会の開催に向けて学校長などで会議を重ねており、事業を具体化していききたい。

問 移動図書館の廃止を言われているが継続される可能性はあるか。

答 現在、毎週金曜日に実施している。運営方法などを見直し継続していききたい。

産業建設

連合審査

6月11日「もんぜん亭」の設置、管理条例と使用料、加入金の徴収条例に対し、総務、産業建設常任委員会で連合審査をした。

問 一般住民の使用料は、使用料は厨房だけであり、4時間までは1000円。

4時間以上は、2000円である。

問 厨房以外は無料。

問 委託先はどこか。

答 シルバー人材センターに委託し、人件費として220万円支払う。

問 野菜をはじめ、物品の販売はできるのか。

答 町内の農家や業者に限定している。大いに利用してほしい。

問 経営について責任者はだれなのか。

答 指定管理者制度を利用するなど責任ある団体、責任ある人が計画し運営してほしい。

問 今後、運営方針を決めていきたい。

意 看板が少なく、わかずらい。

多賀大社前駅を降りた人が入りやすいよう大きな看板が必要だ。

閉会中の調査

5月6日、建設課所管の土木事業など現地視察、調査をした。

平成22年度 土木事業

事業名	路線名等	地先
改良	久徳中川原線	中川原
	小森池線	富之尾
	霜ヶ原1号線	霜ヶ原
舗装	八重練墓地	八重練
	敏満寺地区	敏満寺
その他	多賀月之木線	多賀

(繰越分)

事業名	路線名等	地先
建築	大岡地区	大岡
改良	川相2号線	川相
	榑崎3号線ほか	榑崎
舗装	土田草の根ハウス前線	土田
	宮前橋	宮前
	中村橋	中村
橋梁塗装	銭取橋	中川原
	交通安全施設	大杉1号線

問 河川の竹林の伐採後の処分は。

答 処分が難しく費用面でも困難である。

問 久徳中川原線の補償の内容は。

答 土地は農地8筆、宅地20筆、雑種地5筆、建物住宅5件、倉庫9件である。

問 多賀月之木線の補償は。

答 久徳中川原線と県道交差点の信号機は、現段階では難かしいが要望をしていく。

問 本年度は住宅1件である。

答 土砂災害警戒区域の今後の対策は。

答 自然災害から身を守る防災意識の啓発を図っており、ハード面は考えていない。

問 雪寒基地の工期については。

答 7月末完成の見込み。

問 農協敷地内の滞留拠点施設はどうなっているか。

答 財政上の問題もあり白紙撤回とした。

問 繰越事業が多いが、発注見直しは。

答 6月末までには、すべて発注予定である。

問 雪寒基地の工期については。

答 7月末完成の見込み。

問 農協敷地内の滞留拠点施設はどうなっているか。

答 財政上の問題もあり白紙撤回とした。



雪寒基地の基礎工事(大岡地先)

町政の
ここが
ききたい

一般質問



国の農業政策転換 町の取り組みは 国、県の動向を見極める

—町長— 木村 晴彦 議員

木村議員
農業施策が大きく変わる
こととなった。
現在まで国、県の助成
と本町の独自施策を講じ
集落営農や担い手の育成
に努めきたが、農業の所
得確保は守れるのか。
直接支払いを受ける農
業者の条件は。
減反施策の継承の確認
方法は。
ソバやニンジン、プロ
コーなどの支援策は。
変わっていく農業施策
担い手や起業者の育成
に努める支援策は。

水稲共済の細目書や現
地確認などである。
水田農業推進協議会に
激変緩和措置の予算範
囲内で交付単価を調整。
国は、自給率向上事業
を抜本的に見直す方向
で、1反当たり1万5
千円の定額は継承され
る。
今後、国・県の動向
を見極めつつ、多賀の
独自性も含め検討する。
ソバは、消費拡大に
ニンジン、プロッコリ
ーは、町内食品加工企
業で、地元産材の使用
用拡大など流通体系や
新規作物の生産施設整
備の補助なども視野に
入れ取り組んでいく。



生活再建を待たれる水没地区

芹谷ダム問題と 町債の返済は 最良の解決を見出す

—町長—

木村議員
問題解決の糸口が見出
せないまま翻弄され続け、
本町の行政責任が問われ
ている。
地域振興事務所発表と
県議会の知事発言との内
容の相違点を確認したか。

早期に解決への道筋を
示すよう努めるべきだ。
集団移転地に係る町債
の返済が今年度末である。
償還期日までに県と交
渉を重ねる必要があると
していたが、どうか。

町長
知事の指示で、振興事
務所が芹谷水没部会と協
議を重ねているが、県と
水没部会の両者の主張は
平行線である。
地域皆さんの思いをし
っかり受け止め、最適な
解決の道筋を検討し、県
との合意が早期に実現で
きるよう努める。
町債は、借入れを起こ
した多賀町が償還しなけ
ればならないが、基本的
に原因者である県が負担
すべきものと考えている。
集団移転用地の利活用
は、県に強く求める。
地域振興事務所とも更
なる協議を重ね、より良
い方向性を見出す努力を
する。



学校の 事故防止策は 事故例を教訓に

—教育長— 大橋 富造 議員

大橋議員
他県では天窓から児童
が転落する事故があった。
文科省は児童、生徒の
事故防止に施設の点検、
改善を各教育委員会に指
示した。
本町はどのような対策
を取ったか。

教育長
各学校の実情に応じ、
児童生徒が立ち入るべき
でない場所は施設し制限
危険箇所は耐震工事に
あわせ改修をした。
具体的な安全指導を行
い危険箇所を認識させ事
故の未然防止を図る。

禁猟区の拡大を 禁止区域の指定は 考えていない

—農林商工課長—

大橋議員

四手川の沿線は、他府
県からのハンターも多く、
キジ・ヤマドリなどの狩
猟による流れ弾の事故が
懸念されている。

農林商工課長
町内には禁猟区が3カ
所ある。
四手川沿線は、これま
で関係集落からは要請が
なく、猟期も冬場であり、
農作業の人も少なく、ハ
ンターも限られている。

関係集落から安心して
農作業ができるよう、ま
た、近年は名跡散策やウ
オーキングの人が増えた。
狩猟シーズンまでに禁
狩区の指定はできないか。

農林商工課長
今のところ禁止区域の
指定は考えていない。
現地の状況を熟知され
ていると推測される。

中学生にバス通学を 見直しも含め検討中

—教育長—

富永 勉 議員



富永議員
今年3月に、中学生の
バス通学に関する要望書
が提出された。
安全な通学路を確保す
ることは行政の責務であ

る。現在、歩道もない県
道を毎日子どもたちは通
学している。歩道ができ
ないのなら保護者の要望
書を尊重し、早急にバス
通学を検討すべきだ。

教育長

昨年12月から3月まで
特に危険性の高い冬季に
バス通学を実施した。
通学距離が片道6 km以
上は助成を行っている。
未滿の地域については、
一部負担や回数券配布な
ど現在検討している。



バス通学している中学生

議会を傍聴して下さい

9月の一般質問は
8日予定です。

猟期に危険な四手川沿線



北川 久二 議員

獣害対策事業は 補助事業の中で

—町長—
—農林商工課長—

北川議員
獣害対策事業は今年度で終了となっている。本町も2億円近く予算計上されたが、国からの交付金は300万円。今年度は、敏満寺、富之尾地区などで電気柵を設置するとしていたが、今後の取り組みはどうするのか。

町長
事業規模から単独予算では不可能である。国、県に機会あることに早急な対応を要望している。

農林商工課長
効果が見込める地域、区間を絞り込み実施する。干渉帯の設置などは里山再生事業などで進める。



犬上ハートフルセンター

高齢者対策は

健康づくりを推進

北川議員

要介護認定者は年々増えている。

自宅での介護は容易でなく、施設入所を申請されても、犬上ハートフルセンターと多賀清流の里は満杯状態で、多くの方々が待機をされている。高齢者対策のうち介護福祉施設の充実など今後どう対処していくのか。

町長

高齢者対策は重要だが、施設などの充実も困難。高齢になっても住みながら、元気にいきいきと暮らせるために、若い世代から健康づくりや介護予防事業をより積極的に進める。住民と行政が一体となった健康なまちづくりに努めていく。

どうする絵馬通り

協議を重ねていく

—町長—

本多 重男 議員

本多議員
絵馬通りの道路整備事業は、平成12年度の基本計画に位置付けされている。



シャッター通りの商店街

町長

県道から町道に思い切った変更はできないか。門前町の活性化推進事業については、中長期の計画のもと、地元関係者と協議検討すべきだ。現在、町の活性化に向け、まちづくりアドバイザーの堀教授の指導を受けている。このまちの活性化は最後の機会だ。継続的な指導ができないものか。

公共交通の充実を

隣接市町への接続も検討

—企画課長—

山口 久男 議員

時期や、町ふれあいタクシーの連携、拡充、予約の簡略などの改善策は、利用対象者の拡大、運行経路の見直し、隣接市町との相互乗り入れなど更に検討すべきだ。



山口議員

湖東地域公共交通総合連携計画での実証運行の



どこでも乗り降りできる停留場を

企画課長

実証運行は秋ごろに調整をしている。ふれあいタクシーは、圏域の公共交通ネットワークの一部と考え、だれもが利用できるよう改善し、町外路線への接続も視野に入れ検討中である。

町長

地域振興と高齢者のいきがい空間を確保することを目的として事業を進め、4月に開設した。利用者が少ない点については、初期の事業計画が不十分であった。改めてイベント情報などを住民に周知する予定である。施設運営は、高齢者の場として、シルバー人材センターに維持管理を委託していく。

「もんぜん亭」運営は シルバー人材 センターに委託

—町長—

山口議員
オープンからの利用者が少ない。利用しにくいなどの声もあるが、施設管理面での節減、運営などの改善は、

国保加入者の 負担軽減を 新しい措置は困難

—町長—

山口議員
所得に占める国保税の負担は12・7%になり、ほかの健保組合などに比べ高い保険料率である。国保会計に占める国庫負担は年々減らされ、国の負担割合を元に戻すよう働きかけるべきでは。一般会計からの繰入れの増額、国保税の減免、医療費自己負担軽減などを行うよう求める。

町長

国民健康保険は従来から国の負担は約50%、うち県が7%である。年金生活者などの増加、国保財政への影響はある。国への働きかけも大切。一般会計からの繰入金法は法定分を予算化、法定外の増額は難しい。減免などは所得に応じた措置もあり、予算規模から新しい措置は困難。



「もんぜん亭」そば打ち道場

地産地消と食育学習は

心を育てる教育の推進

—町長—



土田 一善 議員
 中学校においても、地産地消や有機農業、食育学習は指導されているか。

土田(一)議員
 農業体験は、将来を担う児童・生徒の食と農業農村の重要性を認識し、生命、自然、環境など大切に考える心が養える。

町長
 食育通信の発行や給食時間を活用した校内放送での取り組みを通じ指導。生命や自然環境など大切にすることを育てる教育を今後も進める。



楽しい学校給食 当番の子どもたち

職員の襟章と制服は 襟章は着用を指導

—総務課長—

土田(一)議員
 採用時に襟章と制服は貸与されているのか。襟章のない職員を見受ける。職員として自覚と責任を持ち業務に取り組みべきだが、見解は。

総務課長
 服装は公務員としての節度に努めるよう指導。すでに自分を明確にするために名札を着用。襟章は採用時に貸与、公式場面で着用を指導。

古例大祭を 休校に

土田(一)議員

古例大祭こそ活動の場であり、学習の機会でもあるため、大祭当日は休校にできないか。

実施は困難

教育長

大型連休を控え、家庭状況の多様化、休業日の課外活動、各地域での活動など配慮し実施は困難。



全域で待たれる電気柵(八重練地先)

獣害対策の強化を 最善策は困難

—町長—
 —農林商工課長—

小林 元嗣 議員

小林議員
 今日、山間地域だけでなく全域に被害がある。各地域で効果的で効率的な防止が必要、被害やサル、シカ、イノシシの担当職員の育成、配置など町の体制強化を。

生息数は把握しているか。被害は増加傾向、防止対策の実践は適時、適切な対応の窓口が必要。現場では専門的な知識や技術をもつ指導者の役割が期待される。

町長

事業規模から国の補助で実施する。すべての要望地域での防止柵など改善策を絞り込むのは困難である。猟友会の協力で駆除、限られた財源で可能な取り組みを進める。専門の課は農業、林業環境も含めた枠の中で被害対策を考えていく。

農林商工課長

県情報の生息推計数は、ニホンザルは群れ数11、頭数300から400頭。ニホンジカは3千頭余り。イノシシは調査がない。捕獲実績、ニホンジカ20年度約130頭、21年度20頭余りで、年によりばらつきがある。被害額19年度約520万円、20年度620万円。

区長会開催の見直しを 協議会で検討

—総務課長—

小林議員

区長会は、毎年春と秋の2回、平日に開催されている。以前とは異なり若い働き盛りの区長さんも増えている。職場によっては休暇取得も容易ではないと聞く。年1回くらいは、土曜・日曜の開催をする体制を検討すべきではないか。

総務課長

外部説明者などを依頼していることや春、秋は農繁期で休日を避け、平日開催をしている。年度ごとの区長さんにより意向もさまざま。区長連絡協議会の役員会で検討を依頼、参考としてアンケート調査をするなど検討していく。

路線バスの利便性は 改善されたか 1市4町が連携し取り組む

—企画課長—

川添 武史 議員



川添議員
 定住自立圏構想の中で新しい路線バスなどの時刻表が各戸に配布された。20年9月時点と今日では何も変わっていない。どのような経過であったか。

企画課長

利便性の向上と経費削減の両立をめざして、将来にわたって公共交通を維持していくための施策を1市4町が連携して進める。

住宅リフォーム助成の拡充 経済対策として検討する

川添議員

経済対策に住宅リフォーム助成制度は重要だ。彦根市、豊郷町も昨年度と同額の予算を計上。県外の自治体では増改築だけでなく、新築から店舗なども対象とした助成制度があり、第2の公共事業と位置づけている。地域経済活性化を図るべきでは。

町長

町財源の軽減を基本とし、国の経済対策やほかの支援対策を検討する中で対応していく。

町内土木業者の 育成を

川添議員

景気が低迷している中で、22年度の建設課所管の土木事業は13件と聞いているが、その発注状況はどうか。また町内業者の落札率

6月中に発注

建設課長

現在、町内本社、町内営業所を合せて5件が発注済。6月末までに残り発注予定。落札率は、おおむね80%くらいである。



新しくなった公共交通の時刻表

気持ちも新たに

キリンビール滋賀工場がここ多賀町に産声をあげたのは昭和49年。以来36年間、地域の皆様に支えられて、主に近畿圏の各地域向けにお届けするビール・発泡酒などを製造し続け、今日に至っています。

最近では、ビールや発泡酒だけではなく、グループ会社であるキリンビバレッジ社の清涼飲料も製造しており、様々な機能を持った、いわゆる「多機能工場」としてキリングループの製造拠点の中で重要な役割を担っています。

ます。

滋賀工場は今年3月、

3年間にわたるリニューアル工事を終え、新しく生まれ変わりました。このリニューアルにあたり、地域の皆様からいただきました多大なお力添えに、心より御礼申し上げます。新しい設備で気持ちも新たに、地元の皆様に親しまれる工場として、これからも多賀町の皆様とともに歩んでまいりたいと存じます。ぜひ一度お越しいただき、工場見学とできたてのビールをお楽しみください。

工場長 高橋 俊彦



3月に竣工した新醸造棟

たがともん

キリンビール(株)滋賀工場

多賀町に住んで

両親の仕事の関係で多賀で暮し始めたのは中学からでした。

中学、高校を恵まれた自然環境で過ごし、学校卒業後キリンビール(株)に就職しました。

会社中心の生活が続くなか、「地域に密着した企業を目指す」会社方針とともに、自身の生活もPTA活動、公民館活動、消防団入団と地域に密着した生活に変化しました。活動を通じ、多くの幅広い仲間に出会い、今では何ものにも代えがたい

貴重な財産です。

冗談半分に出た手作りの山小屋計画！

いつ完成するか分からない男のロマン？

山小屋もできあがり、今では新人を連れて一泊で行う個人的な合宿が、会社の新人社員研修の一行事として定着しつつあります。

私は私の器の中で、魅力ある小さな山小屋から魅力ある多賀町をアピールし続けたいと思っています。

豊かな自然に感謝

品質保証担当

神細工 宗宏



手作り山小屋へ集合 キリンで乾杯!!

編集後記

6月定例会を終え、広報委員として審議ページを担当しています。

資料をひっきり返しながら、少しでもみなさんにわかりやすくならないかと、悪戦苦闘

今年も太田川からホタルの便りが届き、このすばらしい環境の中に住んでいる私たちは、この自然を絶やすことなく、大切に守り育てていきたいと考えます。

本町においても、環境基本条例を制定予定とのこと。

今一度、身近な自然や環境問題に真剣に取り組みべきではないでしょうか。

本多 重男記